

ライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣

医

の

カ

ル

テ



70



ことう動物病院長

(富士市)

古藤 寛規

まだまだ蒸し暑い日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。今回は、猫ちゃんのがかについて書いてみようと思います。

ご存じのように猫はかなり運動量の多い生き物です。中には一日中ゴロゴロ部屋で寝てばかりという猫ちゃんもいますが、若くて活動性の高い猫は運動神経もかなり良く、高所からの飛び降りやジャンプなどを日常的に行います。そのため、キャットタワーなど高所からの着地失敗による事故やけがもしばしば起こりま

猫のがか

す。特に家の外とも自由に行き来する猫の場合、障害物や猫にとって危険なものに出くわす頻度も多いため、より危険性は高くなります。

不慮の事故で当院を受診される猫ちゃんも、捻挫や爪が折れるなどの軽症から、骨折や脱臼といった重症の子もいます。軽症の場合は内服薬と安静で良くなることもありますが、骨折や脱臼の場合は手術が必要になってきます。手術はプレートやピンを用いて骨を正しい位置に修復します。手

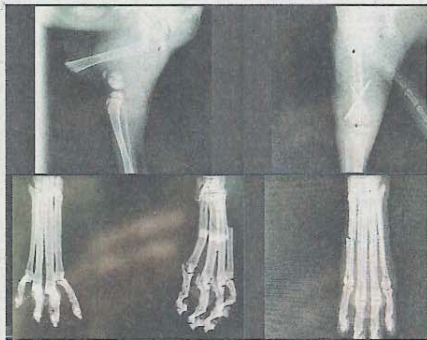
家の外はリスク大

術の場合、麻酔や入院も必要になってきますし、治療が長期化することもあります。術後もしばらく安静が続きます。そのため、猫ちゃんにかなりストレスがかかりま

すし、飼い主様のご負担も大きくなってきます。

もちろん防ぎようのない事故は仕方ないと思いますが、家の外に出さなければ防げるケースもたくさんあります。日常的に家の外と行き来する猫の場合は、事故以外にも、他の猫とのけんかによるかみ傷やエイズ・白血病等のウイルス感染症の罹患、フィラリア・ノミ・ダニ・消化管内寄生虫などの寄生リスクも出てきます。最近ではマダニが媒介する人獣共通感染症「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」の報告も増えてきました。

家の外でも自由に遊ばせてあげたいという考えもあるかと思いますが、けがや事故、感染症のリスクを考慮すると、ご自宅の中だけ猫ちゃんを生活空間にしてあげることがお勧めします。



猫のがかのエックス線写真。大腿骨遠位成長板骨折(左上)を髓内ピンとクロスピンで修復(右上)、中足骨骨折(左下)を髓内ピンで修復(右下)